

うこと、被害枝葉の変色がゆるやかであることから、本病害の誘因を寒害と仮定した場合、1963年1～2月の記録的な寒さがそれであるまいかと考えられる。

被害地域内の三瀬観測所と地域に近接した古湯観測所における1963年、1964年の1～4月の旬別最低気温

(第4表)から、三瀬では-14.0°Cの1月14日前后、-11.0°Cの2月7日前后が寒害罹災日と推定される。

おわりに御教示いただいた林試九州支場徳重陽山技官に謝意を表します。

## 27. 佐賀県におけるクリ害虫の種類について (予報)

佐賀県林・試 前 原 宏

クリタマバチ耐虫性品種が知られて以来、クリの植栽が盛んになっているが、それが大面積にわたる点、特定の害虫が異常発生する恐れが十分にある。それで、どんな種類がいるか、を明らかにしておくことは防除上重要であり、目下調査中であるが、現在まで佐賀県下で分布の判明したクリ害虫について報告する。

種類は1960年以来、主に1964年と1965年、佐賀県林業試験場、背振村、三瀬村、神崎町および富士村で観察し、採集または飼育して得られた標本に基いている。なお、従来よりクリ害虫として知られているものは和名のみ掲げた。

### I 半翅目 HEMIPTERA

グンバイムシ科 Tingitidae

1. ヒメグンバイ  
ヒメヨコバイ科 Eupterygidae
2. ヒメシロヨコバイ      3. オビヒメヨコバイ
4. ホシヒメヨコバイ  
アオバハゴロモ科 Elatidae
5. アオバハゴロモ  
アブラムシ科 Aphididae
6. クリオオアブラ      7. クリマダラアブラ  
ニセタマカイガラムシ科 Lecaniodiaspididae
8. カシニセタマカイガラムシ

### II 鱗翅目 LEPIDOPTERA

コウモリガ科 Hepialidae

9. コウモリガ  
スガ科 Yponomeutidae

10. ギンバネコガ (ギンマルバネコガ)

*Niphonymph anas* STRINGER 蛹は乳白色、葉裏にうすい網をはり、その中にうす繭を作って蛹化する。6月上中旬と8月中旬に誘蛾灯によく飛来する。

ヒロバキバガ科 Xylorictidae

11. ネズミエグリキバガ

*Acria ceramites* MEYRICK 富士村杉山産、9月17日羽化。

ハマキガ科 Tortricidae

12. チャハマキ      13. アトモンハマキ (アト  
ボシハマキ)  
*Archips longicellana* WALSINGHAM 8月23  
日羽化。
14. オオアトキハマキ  
*Archips ingentanus* GHRISTOPH 8月21日羽  
化。

メイガ科 Pyralidae

15. モモノメイガ 果肉加害の幼虫はすべて本種で、  
クリミガは未だみていない。

マドガ科 Thyrididae

16. マダラマドガ  
*Phaoneura vitulla* GUENÉE 8月21日羽化。

カレハガ科 Lasiocampidae

17. クヌギカレハ  
ミノガ科 Psychidae
18. チャミノガ      19. オオミノガ

ヤママユガ科 Saturniidae

20. クスサン 21. ヤママユガ 22. シンジュサン *Philosamia cynthia pryeri* BUTLER 1960年場内クリ園に発生した。その後、誘蛾灯によく飛来しているが、クリを食害しているのをみない。標本は1960年5月12日と6月中旬に採集。

シャクガ科 Geometridae

23. オオトビスジエダシャク 24. ヨモギエダシャク 25. ナカウスエダシャク 26. ウサアオエダシャク 27. キマエアオシャク 28. クロスジアオシャク

スズメガ科 SpHINGIDAE

29. クチバズメ

ドクガ科 Lymantridae

30. ドクガ 31. モンシロドクガ *Euproctis similis* FUESSLY 1965年場内に発生、5月下旬より営繕をはじめ6月中旬に羽化。誘蛾灯にもよく飛来し、7月1日と30日、8月上中旬に採集している。  
32. カシワマイマイ 33. マイマイガ

ヤガ科 Noctuidae

34. ゴマケンモン

III 鞘翅目 COLEOPTERA

タマムシ科 Buprestidae

35. クリタマムシ

ハムシ科 Chrysomelidae

36. バラルリツツハムシ 37. カサハラハムシ *Demotina modesta* BALY 6月~10月、重なりあった樹葉間に普通。 38. カタビロトゲトゲ

カミキリムシ科 Cerambycidae

39. ミヤマカミキリ 40. シロスジカミキリ 41. アトモンサビカミキリ 42. ヨツボシカミキリ このほか背振村鹿路では樹葉上よりキマダラカミキリとオスジハナカミキリも採集した。

オトシブミ科 AtteLabidae

43. ゴマダラオトシブミ 44. オトシブミ 45. ヒメクロオトシブミ

ゾウムシ科 Curculionidae

46. カシワクチブトゾウムシ 47. カシアシナガゾウムシ 48. クリシギゾウムシ

キクイムシ科 Ipidae

49. ツツミキクイムシ *Xyletrus amputatus* BLANDFORD 50. ハンノキキクイムシ 51. サクセスキクイムシ

コガネムシ科 Scarabaeidae

52. アカビロウドコガネ 53. オオコフキコガネ 54. サツマコフキコガネ 55. マメコガネ 56. コイチャコガネ (チャイロコガネ) 57. コガネムシ 58. スジコガネ 59. アオドウガネ 60. ドウガネブイブイ 61. ヒメコガネ 62. ハンノヒメコガネ 63. サクラコガネ 64. クロハナムグリ 65. コアオハナムグリ このほかヒメサクラコガネ、クロコガネも樹葉上より採集している。

IV 膜翅目 HYMENOPTERA

タマバチ科 Cynipidae

66. クリタマバチ

28. キクラゲの栽培試験について (第1報)

大分県林業試験場 手 嶋 平 雄

試験の目的

県下の椎茸生産は近年急速に進展して、これに伴う原木は欠乏の一途をたどり、その資材の供給はすでに他県に進出している現状である。

しかるにキクラゲに必要な原木は適用樹種の範囲が他に比し広く、中には特に生長の早い木もある。未

だ利用資材においては適当樹種が割合に多いので、これらの樹種を用いてキクラゲの栽培を行い、適用樹種の開発並に栽培技術及品質の向上によって企業性の有無を確かめ栽培の福利を増進するものである。

栽培要領

原木伐採年月日 38.12.25 樹種 ぼぶら  
" 39. 1.11 " にれ外7種